

COUNTRY RISK WEEKLY BULLETIN

30 September 2009

IN THE HEADLINES



世界経済

先週ピッツバーグで開催された G20 サミットは、同グループを国際経済協力の主要なフォーラムに格上げし、今年4月建設的なトーンを維持した。金融改革が議題となったが、同様に重要だったのは「強く、維持可能でバランスされた成長への枠組み」に対するコミットメントであり、これは短期的な財政刺激策から脱却し、現在の危機の問題の根幹にある貯蓄アンバランスの問題に対処するために協調する必要性に着目したものである。これらは全て賞賛に値するものであるものの、その実施は各国間の圧力によるものとなるため、黒字国にとって自国の利益にならないと判断した場合にどのように従わせるかについての課題が残っている。



ルーマニア

IMF は期間 24 ヶ月のスタンドバイ取極の第1回目のレビューを終了し、19 億ユーロの引き出しを可能とした。GDP の縮小(上半期で前年同期比マイナス 7.5%)の結果歳入が減少したこともあり、IMF は 2009 年財政赤字目標を GDP の 4.6%から 7.3%まで修正することに合意した。それでもまだ相当の財政緊縮が求められる。昨日、中央銀行は、インフレが引き続き緩和していること—8 月に、前年同期比で 5%—を受けて主要金利を 50bps 引下げて 8%とした。しかし、今週、ポック首相は、連立のパートナーであり、社会民主党のメンバーであるニカ内務大臣を解雇したこともあり、健全な政策は政治的な緊張によって妨げられるかもしれない。



ベトナム

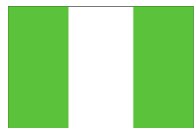
2009 年の最初の 9 ヶ月での実質 GDP 成長率について、速報ベースでの公式見通しは前年同期比 4.6%としており(上半期は同 3.9%)、これは第 3 四半期での 5.8%の成長を示唆している。景気回復はモメンタムを増し、政府目標の 5%は射程範囲に入ってきている。この好転は引下げられた金利水準、政府より推奨された銀行貸出の増加、および財政刺激策に支えられ、建設およびサービス業によって牽引されている。直近の貿易データは今年 9 ヶ月の黒字を USD65 億ドルと、前年の半分以下としたが、対外バランスは依然として脆弱である。輸入が上昇し始めている中、当局が過大な刺激策を取れば為替レートへの圧力が再発する可能性が出てこよう。



ウクライナ

IMF による USD165 億ドルの支援パッケージにもかかわらず、上半期において経済は前年同期比 19.5%縮小した。実質 GDP は 2010 年に 2%程度の控えめな成長に戻る前に、2009 暦年においては 15%以上縮小するだろう。2010 年 1 月の大統領選に向け、潜在的な政治的な緊迫状態の再来も下方リスクに加わる。議会は現在、野党の社会支出の増額を求める声によって機能不全状態にあるが、同支出は IMF との合意に違反することになる。第 2 四半期に安定してから、フリブナは第 3 四半期ではインターバンクマーケットにおいて、再度 USD に対して 10%減価した(ユーロに対しては 14%)。

ALSO IMPORTANT---



ナイジェリア

中国の国有企業が原油の鉱区—現在探鉱中、開発中、あるいはナイジェリア政府と西欧の原油メジャーとの合併事業の下、既に生産を開始しているもの—に対する権益に対して入札をする可能性があるという情報は、世界の経済的強者が将来のコモディティ需要を先取り確保する際に少なくとも起こる商業的な対立の潜在的なリスクを確認させることになった。アブジャは中国の関心を、自国の原油収入の取り分の改善のための権益ライセンスの再交渉のきっかけにしようと目論んでいる可能性もある。潜在的な原油生産量の 1/3 が非効率性(およびニジェールの三角地帯における情勢不安)によって生産されていない現状においては、更なる短期的な不確実性がビジネスの拡大を遅らせることになるだろう。



ケニア

東アフリカの現在の旱魃はこの 10 年で最悪のものと報道されており、23 百万人が直接影響を受ける可能性があるという。ケニアでは、4 月の長雨は完全に期待はずれとなり、農業生産と生存最低生活に対してマイナスの影響を与えた。一方で米国は、ケニアにおいて政治的な統合も汚職の抑制に対する動きも見られないことから、個別の当局の関係者に制裁措置を行うための方策を講じている。こうした事態を背景として、USD209 百万ドルにも及ぶ迅速に引き出し可能な IMF の支援策が実施されているにもかかわらず、今年の GDP 成長率は 1.5%程度に留まるだろう。政治面で混乱した 2008 年の GDP 成長率は 1.7%であり、2010 年には 3%を下回るだろう。

COUNTRY REVIEW SUMMARIES



チリ

上半期の実質 GDP は前年同期比 3.5%縮小したが、拡張的な財政および金融政策と銅価格の上昇に支えられ、控えめな上昇が進行中である。(銅は GDP の 17%、輸出の 52%を占める。)当局の世界的な危機に対する政策対応は健全なものであり、対外流動性指標は依然として堅調だが、債務返済の外貨準備高に占める割合は高水準となっている。2009 年 12 月に選挙が予定されているところ、パチェレ大統領は 2 期連続で就任することは認められていないため、対立政権への変更はあるだろうが、これが一般的な安定性を脅かすものにはならないだろう。



オマーン

国王に即位した際にいくらかの懸念も出ていたものの、カーブース王は依然として人気があり、政治的な環境は安定している。国際関係は概ね良好である。原油価格とエネルギー生産のサイクルに依存するための経済的な不安定さはあるものの、財政および対外収支は黒字となっている。最も、液化天然ガス(LNG) およびエネルギー関連の精製業への多角化を積極的に推進する政策を取っている。外貨準備高は輸入の 6-9 ヶ月をカバーし、「余剰」原油収入は原油安定化勘定に流れるようになっている。今年および 2010 年における GDP 成長率は 3-4%となるだろう。

IN BRIEF

金利 ギニア

ハンガリー: 政策金利が 50bps 引下げられ 7.5%に。ロシア: 政策金利が 50bps 引下げられ 10%に。今週の街頭暴動を受け、2010 年 1 月の選挙に向けて、治安の悪化に対する懸念が上がっている。

Edited by Andrew Atkinson

The content of the report (which is subject to change without notice) reflects only our opinion, which is based on information received by us. Accordingly no warranty, representation or other assurance is given as to the accuracy or completeness of the report. The report is for general information and is not intended to address any requirements you may have, for which you must obtain independent advice. The report does not constitute any form of advice, recommendation or arrangement by Euler Hermes UK plc or by the Euler Hermes Group of Companies and must not be relied upon in the making of any decision, agreement or arrangement. © Euler Hermes UK plc 2008.